

運輸・関東貨物・運輸・工務

各職能別定期委員会

◆各専門分野の知識を発揮して◆



国労東日本本部は現在、「労働条件に関する協約」についての改訂交渉をJR東日本会社との間で進めています。この内容は、今年の2月から5月にかけて取り組んだ「職場労働条件アンケート」に基づき、8月に開催した第27回大会で要求を決定し、大会後「申1号」（8月25日）として要求提出していたものです。現在も、交渉は継続中（12月6日現在）です。

こうした中で、10月11日運輸協議会の定期委員会を皮切りに、関東貨物・運輸・工務など、各職能別協議会が委員会を開催しました。JR北海道問題を持ち出すまでもなく、今こそ仕事・安全総点検の運動が求められています。今号は、各職能別委員会報告としました。

関東貨物協議会は、11月3日港区において、第26回定期委員会を開催しました。委員長には議長、事務局長、委員13名、各地方副議長6名、エリア貨物担当執行委員、交渉委員2名、来賓には東日本本部佐藤書記長、全国貨物協議会眞田議長、東北貨物協議会高橋副議長が出席しました。委員は議長が出席しました。委員は議長には高橋委員（新座）を選出し議事が進められました。第28回全国貨物協議会定期委員会での安全輸送の確立・労働条件改善の闘い・JR三島・貨物会社の『貨物鉄道政策』の実現を目指す闘いをはじめとする方針が決定されました。関東貨物協議会もその方針を受け、最大の課題である『組織強化・拡大』『出先の労働条件』『関連会社プロパー社員の交渉権確立』など重要な課題が山積する中で、10名の委員から発言がありました。発言は、職場の問題を中心とした『安全問題について』、社長



(組合員の購読料は組合費に含まれます)
港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 松井正義
編集責任者 伊藤隆夫

No. 745 定価 20円
2013年 12月16日

新採対策
写真募集中
(詳細はHPで)

http://www.e-nru.com/
携帯用ホームページはこちらのQRコードから

運輸協議会 第25回 10月11日 定期委員会



国労東日本本部運輸協議会は、第25回定期委員会を10月11日に東京・港区で開催しました。座長には、東京地本の相田委員（浦和電車区）が選出されました。東日本運輸協議会・長谷

再選され、2013年度の関東貨物協議会を牽引していく体制が整いました。また、直近の闘いである「2013年度年末手当獲得」に向け、全力で取り組むことを意思統一しました。

川議長は挨拶として「第12回全国運輸交流会の報告」を中心として報告。来賓には、東日本本部・佐藤書記長、東日本工作協議会・小野議長が出席し報告を受けました。

その後、各地方からの報告が入りました。

「2月に委託会社のTTSと交渉。3月には高崎支社と外注化施策の見直しについて交渉。6月に構内計画の委託提案を受け、この10月には高崎車両センターで新たに18名が出向に出された」（高崎）、「勤務アンケートを取り組んだ。起床時間が、5〜30分早くなるもの、女性の場合個人差はあるものの30分以上も早く起床している。睡眠不足は、様々な病気の要因とも言われ、今後運動として睡眠を確保したい」（東京）、「検修外注化で7項目、偽装請負問題で16項目の要求を提出。この間、ダイヤ改正のたびにワンマンの本数が増えている」（仙台）、「外注化によって職場の問題・要求を解決するための直接交渉ができないか？また、3年後に本体に戻す・戻させる運動を！」（水戸）、「9月に千葉鉄道サービスと労働

使間協約を締結。また、10月以降の問題として、『輸送混乱時の他区とのやり取り・信号とのやり取り』など問題が山積（千葉）、「ワンマン運転が拡大。長大トンネルやスイッチバック区間もあり、安全上問題も」（長野）、「速度超過や車掌の赤閉めといった事故が増えている。起床点呼の20分前には起きています。駅の場合には起きている。前の場合は点呼個所が、さらに20分以上も前になる実態（新潟）、「構内作業委託で不慣れなため、流転事故が発生。秋田車セでは、総合車セからの転勤者が増え、畑違いで教育不足を感じる。」（秋田）、「北海道新幹線になれば、『あけぼの』の廃止も予想され、青森車両セの位置づけなど不安。今後議論を！外注化によりほとんどが出向、組織体制の課題も」（盛岡）など、各地方からは問題が山積していることが報告されました。

「安全・安定輸送」の確保に向け、専門分野の知識を発揮して会社に要求を出していきます。

尚、役員では長谷川議長（東京・大宮）、保科事務局長（東京・八王子）を再選しました。



第26回 11月11日・12日 運輸協議会 定期委員会

11月11日～12日にか

けて東日本運輸協議会の交流会を行うと共に、第26回定期委員会が開催されました。二日間の討論の中で問題点が浮き彫りにされ、地方の線区では「ドンドン切捨てが進んでいる（安楽死を待たせたい）」ことが出されました。東日本震災からの仮復旧ではBRTへの代行輸送が始まりましたが、被災地ではないのに

大雨で土砂崩落の岩泉線は廃線が決まりました。また只見線も一部復旧のメドが立たないまま、と なっています。新幹線の 駅や地方の大駅、分岐点 となる駅はJR直轄であ るものの、それ以外は委 託や無人化が進んでいま す。

新幹線との並行在来線

では、第3セクターで更なる要員削減が進められて います。「青い森、いわて銀河」はまだまだ赤字が続く、「しなの鉄道」も今はかろうじて黒字ですが、北陸新幹線開業で 延伸すれば黒字を維持す ることはできない、など が出されました。松本～ 長野間は特急が走る線区 ですが、普通列車のワンマン化が行われ、そのた

めに所要時間が延びたこと、朝夕ラッシュや混雑時には車掌の乗務が必要であることが強調されました。各線区ともますます利用しづらい鉄道になり、年配者や病弱者へは不便をかけるようになり、お客様離れが進んでいます。

工務協議会 11月16日 第25回定期委員会

東日本工務協議会は、

11月16日、東京地本会議室において第25回定期委員会を開催しました。

議長に本間委員（横浜）



を選出しました。来賓には東日本本部から佐藤書記長、工務協全

首都圏では「業務委託」

が進み、「それでも要員が集まらないなら」と無人化（遠隔操作）が提案されています。駅要員も減らされ、異常時には応援体制もままならない中で働いている実態が出されました。更にちよつとしたミスや接客上のトラ

尾崎副議長は「北海道問題について、全国連絡会として向き合って行くことが任務である」と挨拶されました。

東日本工務協を代表し

て湯浅議長は「10月19日、組織拡大対策交流会を開催し、若手目線と年配者目線の違いを話し合うことが出来た。若い仲間の実態を生で聞き、それに向き合うことが拡大に繋がる。北海道問題は分割民営化の矛盾が噴き出し、要員は半分、修繕費も削減され、手が回らなかつたのでは？東も同じような状況はないか？上野触車も背景に要員不足があるのではないか？線閉事故・待避遅延の実態を突き合わせ『メ

ブルに対して「処分」や事情聴取など締め付けを強めています。労働条件改善に向け、委託職場での団体交渉の確立が早急に求められ、千葉では団交や労使協定を勝ち取ったことの報告がされました。

車掌・駅を問わず、労働時間が曖昧になっていることも出され、「労働」という基本を職場段階から労働組合・労働者の立場としてしっかり確立していくことが求められています。最後に新議長に広瀬氏（高崎）、事務長に佐藤氏（東京）を選出し、終了しました。

ンテ改善』の検証を」と挨拶しました。

討論では、「組織拡大

対策交流会で若手の意見を聞き、職場の若手と向き合っている」、「工務協の芋煮会に東労の若手が初めて参加」など、組織拡大に向けた真剣な取組みが報告されました。また、「8月に土木分科会

が久しぶりに開催され、職場の組合員が元気になっている」土木職場の「超勤有りき」と、若手が過半数を超える職場実態が報告されました。「メンテナンス」後の報告では、「RFDが老朽化している」「教育がさ

れていない」「触車事故や待避遅延がなくならないのは、『要員が足りない』という実態があるから」などと、工務職場全体が抱える本質的な問題の報告がされました。さらに、常磐線復旧につい

て「竜田まで延伸されるが、高線量下での労働であり、作業員の健康が問題である」との問題が報告されました。最後に、『メンテナンス後の職場は、要員不足と世代交代が安全を脅かしかねない実態に拍車を掛けている。こうしたことを問題にしなが

最新のがん治療に合わせて 進化したアフラックの新しい 「がん保険」です。

「生きる」を創る。

Affac

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社) 東京第三法人営業部

〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

©詳しくは、「パンフレット(契約概要)」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。 AF007-2011-0293 6月22日